

文弘宣氏とINAC神戸レオネッサの
マスコット「らいむちゃん」



万城目 学氏



起こそうと呼びかけ、関西の各府県や経済団体、報道機関などが賛同してはじまった。同年8月には小泉純一郎総理大臣(当時)を迎え、推進組織である「関西元気文化圏推進協議会」の設立総会が行われた。以来、官民の垣根を越えた協力体制のもとさまざまな文化活動を展開し、関西文化圏の一体化・活性化の推進に取り組んでいる。

なでしこジャパン・澤選手らを輩出 INAC神戸レオネッサが大賞 関西元気文化圏賞贈呈式

関西元気文化圏賞主催者と受賞者



関西元気文化圏推進協議会(自治体、経済界など107団体)は1月23日、「平成23年度関西元気文化圏賞」の大賞に、なでしこリーグ所属の女子サッカークラブ「INAC(アイナック)神戸レオネッサ(神戸市)」を選び表彰した。また、特別賞は山本能楽堂、ニューパワー賞は作家の万城目学さんらに贈られた。

同賞は、その年に文化を通して関西から日本を明るく元気にした人や団体に感謝するとともに、一層の活躍への期待をこめて平成15年度から毎年贈られている。シエラトン都ホテル大阪で行われた今回の賞贈呈式は文化庁芸術祭(関西地区)と合同で開催され、近藤誠一文化庁長官らが列席のもと、森詳介関西元気文化圏推進協議会会長(関西地域振興財団会長)から各賞の受賞者に賞状と記念盾が贈られた。その後の祝賀会で株式会社アイナックコーポレーション代表取締役会長兼CEOの文弘宣氏は、「クラブ設立10周年(平成23年)」という記念すべき年に、選手たちのこれまでの努力にふさわしい結果が出せた。とくに関西圏

からのリーグ優勝は久しぶりで、関西とりわけ神戸の方々には非常に喜んでいただいた。今年に関西からオリンピック選手が輩出されるよう頑張っていきたい」と、所属する澤選手らの健闘を讃えた。また、万城目氏は「大阪の長い歴史のなかで、あまり語られることがなかった時代の小説も書いて、関西の文化に貢献していきたい」と、今後の抱負を語った。

平成23年度受賞者と贈呈理由



INAC神戸レオネッサ

大賞
2011FIFA女子ワールドカップの日本代表チームに主将ら7人の選手を輩出して初優勝。同年のなでしこリーグでも初優勝。日本女子サッカー界のみならず、東日本震災で甚大な被害を受けた日本国民を元気づけた。



公益財団法人山本能楽堂

特別賞
伝統芸能である能の伝承と普及に対する功績は大きい。「上方伝統芸能ナイト」は100回記念公演を成功させた。2009年の大阪・八軒家浜での新作能「水の輪」は、同年11月にブルガリア公演を行い好評であった。



大阪ステーションシティ

ニューパワー賞
平成23年5月、「アート解放区」などのギャラリーを開廊するJR大阪三越伊勢丹や専門店が集まるLUCUA、8つの庭園など、大阪の新たな名所をオープンし、大阪・関西の魅力を発信する拠点として期待される。

スーパーコンピュータ「京」の開発チーム

理研と富士通が共同開発した「京」が、平成23年6月の国際スーパーコンピューティング会議で、処理性能で世界1位を獲得。日本の技術力の高さを世界に示すとともに、医療や防災分野での高度な運用も期待される。

尾野真千子(女優)

大阪・岸和田出身のファッションデザイナー・小篠綾子をモデルにしたNHK連続テレビ小説『カーネーション』でヒロインを演じ、大阪のものづくり文化や温かく活気のある関西のPRに大きく貢献した。

万城目 学(作家)

直木賞候補となった小説「プリンセス・トヨトミ」は、大阪の街や歴史を織りまぜながらコミカルに描き、映画化されると観客動員数100万人を超える大ヒットになるなど、大阪を中心に明るい話題を提供した。